お寺にお参りしようとすると「そんなにエラくなってどうするの？」「またお勉強ですか？」とからかいの言葉を頂くことがあるそうです。お寺はえらくなるために勉強するところだと思われているようです。「二河譬（にがひ）」という教えがあります。旅人が進むと目の前に渡ることもできない大きな河に出くわします。右に火の河（いかりの煩悩）左に水の河（欲の煩悩）、後ろからは旅人に襲いかかろうと群賊悪獣が押し寄せます。すると河の真ん中にひとすじの道が現れます。人が一人やっと通れるような細い道です。「そんな道を行ったら河に落ちて死ぬぞ」「戻って来い」と呼び戻す声がします。三定死（行くことも退くことも留まることもできない）に立たされたとき、向う岸から如来の「来たれ！」の声、背後から釈迦の「行け！」の声。旅人は白道を無事に渡り切って救われたという譬えです。「仏法聴聞に連れはいらない」といわれます。ほとけ様から賜った尊い御縁ですから、ぶらずひがまず、謹んで頂きたいものです。ほとけ様のお呼び声に「はい」と返事をするのが「南無阿弥陀仏」と聞いております。　　　　　　　　　　　　　合掌

　　　**【平成２９年度　第5回定例聞法会】**

**時：平成３０年　4　月　１３　日（金）　午後１時半から**

（持ってくるもの：　念珠・お経本・肩衣・歎異抄）